

# ピーマンの生産量道内No.1 集出荷選別施設を活用し、ピーマンの生産を推進するJAの取組 JAにいかっぷ(新冠町)



(施設外観)

## 【組織等の概要】

- ◆ 代表者：代表理事組合長 前川隆範
- ◆ 組合員数：900人(正組合員286人、准組合員614人)
- ◆ 主な取扱品目：軽種馬、酪農、肉牛、そ菜、水稲
- ◆ 連絡先TEL：0146-47-3111
- ◆ URL：<http://ja-niikappu.com>

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ JAにいかっぷは、畜産、そ菜、水稲など様々な農業に取り組んでいる地域であるが、そ菜の中でも周辺地域などで生産が少ないピーマンに着目し、他との差別化を図るべく生産を推進
- ◆ その結果、ピーマンの作付増加に伴う生産量の増加が顕著となってきたことや、産地確立のために品質の維持・向上を図る必要が生じたことから、生産者と検討を重ね、所得向上と作業の効率化を目的に集出荷選別施設を整備

## 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 製品の規格・品質の統一  
⇒ 重量選別機の導入により、袋詰めの際の重量のばらつきを無くし、瞬時に最適な個体を組み合わせることが可能となり、無駄が大幅に減少
- 労働時間の効率化  
⇒ AIビジョン測定器によるサイズ選別ラインの整備や自動箱詰機による箱詰め作業など、可能な限りの作業を自動化することで労働時間を削減することができ、他の作業への人員の配置も可能

## 【取組の成果】

- 施設整備前の販売額は約5億円であったが、品質が向上したことや生産者の生産意欲向上による生産量の増加等により、平成31年度には販売額約8億円、最盛期の1日出荷量は約35トンとなった
- 高品質なピーマンの安定供給、またスーパー等からの短期間で大量出荷の依頼に対応できる産地として、知名度が上昇
- 選果能力の向上や作業の効率化で選別作業への人員を増やすことができるため、より高品質なピーマンの出荷にも期待

## 【活用した支援施策】

- 強い農業づくり交付金(H27年度)  
(ピーマン選果施設、選果機一式)

## 【今後の展望】

- 隣接するJAの組合員が生産するピーマンを集荷する一方で、JAにいかっぷ管内で生産しているミニトマトの集荷を隣接産地のJAに依頼するなど、JA相互間の協力体制を構築して、地域農業全体の生産力向上を目指す
- 軽種馬生産の主力産地でもあることから、排出される馬糞から生産される堆肥をピーマン生産に活用する方法を確立し、更なる生産性の向上と生産者の所得向上も目指す



(選別ライン)



(箱詰ライン)



(パレット出荷)